

ピアノを弾こう! 教室訪問 PART 2 第5回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

大事ななのは、弾きたい音を イメージさせること

今回訪問したのは、神奈川・横浜市のヤマハ特約楽器店「ヤマハユニスタイルトレッサ横浜」のピアノ教室だ。教え子の9割が小学生という佐藤葉子先生は、「指導者としては厳しいほうかも」と話す。そこには、佐藤先生が「絶対に譲れない」ポリシーがあった。

今月のピアノ教室 神奈川・横浜市
ヤマハユニスタイルトレッサ横浜



ヤマハ特約楽器店「ヤマハユニスタイルトレッサ横浜」は、1歳から大人まで、豊富なレッスンコースが魅力。4月には、「Dance Switch By Yamaha」「大人の音楽レッスン」の新コース(サクソフォン・トランペット・フルート・ヴァイオリン・エレキギター)を新たに開講。
■神奈川県横浜市港北区師岡町700番地トレッサ横浜北棟2F ☎045-533-1531 / 東急東横線「綱島駅」よりバスで約10分ほか

写真提供 ヤマハユニスタイルトレッサ横浜

さあ、レッスンしましょう!



レッスンは約30分。ピアノを弾くだけでなく、歌ったりリズム打ちをしたり。生徒のようすを観察しながら、教え方を工夫する佐藤先生。

今月の先生と生徒

佐藤葉子先生

さとう・ようこ ●国立音楽大学卒。ヤマハユニスタイルトレッサ横浜の専属講師として週3日、約30人の小学生と大人を教えるほか、自宅でもピアノ教室を主宰している。「子どもたちがピアノを続けるためには、保護者との連携も大事ですね。ヤマハ音楽振興会東日本エリアのPSTA講座スタッフ。

たかはしさき

高橋咲ちゃん(小4)

小1から、佐藤先生の自宅のピアノ教室に通っている。以前は、朝早く起きて学校へ行く前にピアノを弾いていたけれど、最近は夜、寝る前に練習することも多い。「この曲もあの曲も載っている!」と、月々の最新号を喜んでくれた。

佐藤先生のレッスン流儀
テクニックの上達以上に、
美しい音を出すことにこだわる



エルガーの「愛のあいさつ」を連弾する笑顔の佐藤先生と咲ちゃん。右手と左手のバラツキもなく、いい感じ!

いつもと勝手が違うせいか、緊張が隠せない咲ちゃん。レッスンが始まると少しずつ頼りに赤みがさし、ピアノの音も力強さを増していった。



時には、保護者が同席することも。「家庭で“ちょっとピアノを聴かせて”と保護者が声をかけるだけで、子どものモチベーションが上がります」



指導者としては、「どちらかといえば厳しいタイプ」と自己分析。「スポーツなど業種の違う指導者の言葉は、すごく気になります。褒めて育てる方法もあるけれど、本人のためにはここは厳しく言ったほうがいいのか、いやいや優しい言葉にすべきか」と、ピアノを弾く喜びをどうすれば生徒たちに伝えられるのか、日々、自問自答している。



練習メモを必ず書いています

1回も欠かさずレッスンの内容を書いている咲ちゃんのメモ帳。「注意ポイントもきちんと書いて、真面目な性格が伝わります」と先生。

レッスンで毎回、 問いかけ続ける言葉

生徒の高橋咲ちゃんは、小1から佐藤葉子先生のレッスンを受けている。「上手に弾けるようになってきて、ピアノへの興味がどんどん増している時期。レッスン内容のメモを残すように生徒たちに勧めています。咲ちゃんは自分の意志できちんと書き続けています」

佐藤先生がレッスンで大事にしているのは、「美しい音へのこだわ

り」だ。「同じ音でもより美しい音を出す方法を覚えてほしい。だから毎回、“どうやって弾きたい?” “イメージどおりに弾けた?”と、生徒に問いかけ続けます」

繰り返し問い続けることで、生徒自身が自分で考える習慣を身につけてほしいとも願う。「明確な言葉にならなくても、イメージを自分の言葉で表現しようと努力する。それが考える訓練になり、インディペンデント・マインドの育成につながる」と、佐藤先生。

曲の背景や歴史なども掘り下げて説明するので、つい1曲にかける時間が長くなる。イマドキの子どもたちは、ゲームのように曲を攻略するスピードが速いほうが喜ぶのでは?と尋ねると、「子どもは速弾きになりがちですね。でも時間がかかっても、曲を仕上げる達成感を味わってほしい。私が“よくできました”という花マルを乱発しないことを生徒たちも知っているの、逆に花マルをあげたときは、とても喜ぶますね」